

ドクターの茶飲み話

耳鳴り、難聴の症状をともなっためまいは、内耳の疾患を疑って、まず耳鼻科へ。

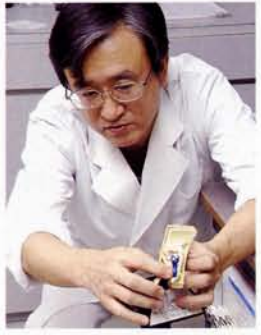
笠井耳鼻咽喉科クリニック 院長 笠井 創先生 — 第2回



成人の患者さんの場合、耳の疾患で多いのは、めまい、耳鳴り、それに難聴が挙げられます。

たとえば、軽いめまいであっても、立っていることが難しく、まっすぐ歩けなかったり、物が二重に見えたりする場合は、脳血栓、脳出血、脳炎など、中枢障害が疑われます。

立ちくらみは起立性低血圧によって起こり、後頭部から頸にかけての強い痛みや吐き気をともしなれば、緊張性頭痛がめまいの原因と考えられます。



意識障害や頭痛、手足のしびれ、舌のもつれ、目のかすみなどの症状をともなっていたら、脳梗塞、脳腫瘍など生命に関わる疾患を疑って、すぐに専門医の診断を受けたほうがよいでしょう。

めまいの症状が現れる疾患もさまざまあるため、吐き気をともなったりすると、何か深刻な病気なのではないかと、心配される方も多いようですね。

そこで今回は、めまいについてお話ししてみたいと思います。

軽いめまいでも、手足のしびれや舌のもつれ、頭痛などがあつたらすぐに専門医に診てもらおう。ひとくちに「めまい」といっても、その症状がおきる原因は多岐にわたり、耳鼻科、脳神経科、神経内科など、それぞれの専門医による治療が必要となります。

平衡感覚のバランスを保つ器官は、堅い骨に保護されたブラックボックス。まずその内耳の障害をチェック！

一般にめまいと感ぜられているものの多くは、自律神経のバランスの狂いによって起きているのです。

地上の生き物は、すべて重力にあらがって生命活動を行っています。二足歩行の人間が一番楽に動ける体勢は、重力に対して垂直の状態であり、それは、内耳の平衡感覚の働きによって維持されています。

しかも、この内耳の機能には、ある程度のゆとりがあり、必ずしも垂直でない状態や、行動中などに起きる多少の揺れを気にせずに、行動できるような仕組みになっているのです。

しかし、ストレスなどで自律神経のバランスが崩れると、そのゆとりの幅が狭まり、普段は気にならない揺れなどをめまいと感ぜ取ってしまうのです。

このようなめまいは、自律神経のバランスを正常に戻せば、起きなくなりません。そのためには、十分な睡眠や規則正しい生活、休養などをとり、ストレスの緩和に努めましょう。

耳鼻科の治療の対象となるのは、この内耳になんらかの直接的なダメージが加わって起こる内耳性めまいです。

内耳は、鼓膜の内側の中耳の奥にあり、堅い骨でがっちり囲まれています。外から触れることのできない、ブラックボックスのような部位ですが、中耳炎などで骨が壊され、内耳に炎症が及ぶことがあります。この炎症によって、難聴とともに痛みや耳鳴りをともなつためまいが起ります。

また、ある日突然激しいめまいに襲われ、約1週間続いたあと、しだいに軽快し約1カ月で症状が収まる、内耳の前庭神経炎や、内耳に余分なリンパ液が溜まり、聴力や平衡感覚に異常が生じるメニエール病、

このほか突発性難聴などによつても、めまいが発症します。

これら内耳性疾患は、直接生命に関わる病気ではありませんが、3大症状としては、回転性めまい、耳鳴り、難聴が見られ、めまいは数分から数時間に及び、吐き気や嘔吐をともなつこともあります。

なんらかのめまいの症状が気になつたら、まず耳鼻科を訪れて、聴覚検査をしてみてください。めまいの原因となる疾患がおおよそ推察できると思います。

■ ■ ■

かさいはじむ・プロフィール
昭和58年、千葉大学医学部大学院終了、医学博士。国保君津中央病院、国立がんセンター病院を経て、横須賀共済病院耳鼻咽喉科医長となり、千葉大学医学部非常勤講師を兼任。平成2年、横浜に耳鼻咽喉科気管食道科笠井クリニック開設。平成11年に笠井耳鼻咽喉科クリニック・自由が丘診療所を開設。

http://www.linkclub.or.jp/~enkasai/